

平成30年度インバウンド対応医療態勢整備支援事業 「外国人患者受入医療コーディネーター養成研修」 ご案内パンフレット



沖縄県 文化観光スポーツ部



(企画・運営)

メディフォン株式会社/一般社団法人ジェイ・アイ・ジー・エイチ

MEDI + PHONE

JIGH
Japan Institute for Global Health

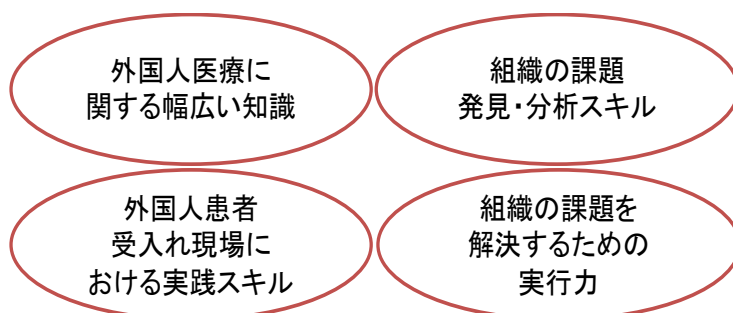
外国人患者受入れ 医療コーディネーター養成研修とは

プログラム紹介

外国人患者受入れ経験が豊富な医療機関や外国人受入れの専門家を講師とした2日間の研修プログラムです。2016年度に国立国際医療研究センターで開催された養成研修プログラムをもとにメディフォン株式会社・一般社団法人ジェイ・アイ・ジー・エイチが監修の先生方とともにより充実したプログラムを目指して構築されました。

本研修では、①外国人患者受入れに関する幅広い知識、②外国人患者受入れ現場における実践的スキル、③組織の課題の発見・分析スキル、④組織の課題を解決するための実行力を包括的に身に付けることができ、修了者には修了証と「外国人患者受入れ医療コーディネーター」バッジを付与します。また、ネットワークづくりのための懇親会も実施します。

外国人患者受入れ医療コーディネーター養成研修で学べる4つのスキル



外国人患者受入れ医療コーディネーターとは？

院内において外国人患者受入れ体制整備の中心的役割を担うとともに、外国人患者の来院時に安全かつ円滑に医療を提供するための院内外調整を行う医療者のことです。厚生労働省が医療通訳システム導入支援とあわせて全国の医療機関への配置支援を行っています。

「外国人患者受入れ医療コーディネーター」の認定期間は2年間です。
認定の継続を希望の方は、2019年より開始予定の更新研修をご受講ください。

受講者の声



岩井医療財団 医療情報部 広報課 北村果納子さん

自院の課題の整理ができ、 手探り状態からの脱出の契機に

研修では、外国人患者の受け入れ実績を多く持つ医療機関の担当者の方から事例を交えた話が聞けて、これまで知らなかった知識・ノウハウを得ることができましたし、外国人患者受入れ体制の整備に積極的に取り組んでいらっしゃる医療機関の方とも交流ができました。

研修に参加したことで、当院での課題を整理することができ、その後の体制整備でやるべきことが明確になったことが、当院の体制整備が前に進むきっかけになったと思います。

開催の背景

① 外国人受入れ体制整備にかかわる国主導の大きな動き

2018年に入り、政府内閣官房や与党自民党内に外国人患者受入れに関する議論を行う協議体が相次いで設置され、本格整備に向けた動きが活発化しています。こうした国の動きに伴い、今後、各医療機関にも体制整備が強く求められることが予想されます。

●内閣官房「訪日外国人に対する適切な医療等の確保に関するワーキンググループ(WG)」

- 2018年3月に内閣官房 健康・医療戦略推進本部（本部長・安倍晋三首相）内に設置が決定。
- 6月に総合対策案がまとまり、中に「医療コーディネーターの養成・医療関係者等の研修強化」が盛り込まれた。

●自民党「外国人観光客に対する医療プロジェクトチーム（PT）」

- 2018年3月に自民党政務調査会内に設置。座長は萩生田光一党幹事長代行、事務局長は自見はなこ参院議員。
- 第6回PT（4月27日）において「外国人観光客に対する快適な医療の確保に向けた提言（案）」がまとめられ、外国人向け医療コーディネーターの養成、ウェブサイトでの医療保険への加入推奨やカード決済することができる医療機関の整備、医療費未払い外国人の再入国拒否などが提言として盛り込まれた。

●厚生労働省「外国人患者の受入体制の整備」関連予算（1.37億円）

- 地域における外国人患者受入れ体制モデルの構築（自治体向け補助事業）
- 団体契約を通じた電話医療通訳の利用促進（団体契約を行う事業者を5程度選定）
- 医療通訳・外国人向け医療コーディネーターの配置支援（拠点病院を10～箇所選定）

② 医療安全としての外国人患者受入れ体制整備の必要性

医療機関対象の調査によって、外国人患者の受入れに際した重大なインシデントやトラブルが発生していることが明らかになり、医療安全としての体制整備が求められつつあります。

●全国自治体病院894病院対象の質問調査（2016年2月実施）より

「外国人患者と言葉の問題によるインシデントが報告されたことのある病院は（回答のあった）274病院のうち13病院（4.7%）、17事例。（中略）影響度は、レベル0がMRI 中止など3事例、レベル1が無断離院や点滴自己抜去など9事例、レベル2が墜落分娩1事例、レベル5が死亡1事例、その他が3事例。（中略）インシデントは、中病院が8病院、大病院が5病院で、外来、急患・救急などを受けている病院、過去1年間の外国人受入件数が20件以下または40件以下と少ない病院からも報告されていた。」

【出典】2017年11月15日、日本公衆衛生雑誌第64巻11号（2017）
「全国自治体病院対象の医療通訳者ニーズ調査」（静岡県立大学看護学部 濱井妙子ら）

●救急告示病院3,761機関対象のアンケート調査（2016年10月～12月実施）より

「実際の外国人患者とのトラブル経験（数年）の結果は、『金銭・医療費に関するトラブル』が29.8%（509機関）、『言語的コミュニケーション上のトラブル』は26.5%（454機関）の医療機関が経験していた。（中略）『訴訟に発展した・発展する可能性があったトラブル』も1.3%（23機関）の医療機関が経験していた。」

【出典】厚生労働省行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）分担研究報告書
「日本における外国人診療に関する調査研究」（山田秀臣 東京大学医学部附属病院国際診療部）

開催概要

本研修受講の効果

医療機関で外国人患者受入れやそのための体制整備を行う上で必要な基礎知識やスキルを包括的に学ぶことができます。

対象

- ・今後県が推進する「訪日外国人患者受入可能医療機関リスト」への掲載を了承する医療機関で、当該医療機関に従事し、研修後、外国人患者受入体制整備の推進を担う方
(※医療コーディネーターは、院内にて、受付、問診、診察、会計、薬局といった各部署と連携した業務を担うため、それに適した方の受講が望ましいと考えております。)
- ・外国語のスキルは問いません。

講義日程（予定）：2018年11月14日(水)10:00-17:30、2018年11月15日(木)10:00-18:20

会場：ダブルツリーヒルトンby那覇首里城 2階 広福の間

住所：沖縄県那覇市首里山川町1-132-1（※駐車場500台完備）

対象人数：40名程度（予定）※1機関につき2名まで

受講費：無料

(※離島から参加する場合は、規定に基づき旅費を事務局で負担いたします。)

お申し込み方法

次の①②の書類をすべて揃えて、下記の「お問い合わせ先・書類提出先」宛に、郵送もしくはご持参ください。

①受講申込、課題意識確認書（様式1）※別紙：募集要項巻末

②推薦書（様式2）※別紙：募集要項巻末

※郵送の際には、提出書類を入れた封筒の表に「医療コーディネーター養成研修申込書在中」と、また、裏には差出人名を明記してください。

【お問い合わせ先・書類提出先】

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー

受入事業部 受入推進課（大城、久田、比嘉）

TEL: 098-859-6129 FAX: 098-859-6222 e-mail: inbound@ocvb.or.jp

〒901-0152 沖縄県那覇市字小禄1831-1 沖縄産業支援センター2F

研修プログラム（予定）

プログラムの内容（1日8時間程度×2回程度）

医療機関が外国人患者を受け入れるにあたって必要な院内体制整備に関する基礎知識と実践的スキルを学びます。

- ・多言語／異文化対応体制整備について
- ・未収金対策について
- ・外国人加入医療保険・傷害保険（旅行保険）について
- ・組織の課題発見・分析スキル、課題解決スキル
- ・所属医療機関の受入体制整備を具体的に進めるための手順、必要項目等
- ・課題ワーク

※外国人患者受入体制整備のためのプログラムを専門的に実施している団体が当研修の企画・運営を行います。講師にはその他に、外国人患者受入れを先進的に受入れている医療機関の外国人患者受入れ担当者を沖縄県内外から迎えます。

	カテゴリ	時間	講義タイトル	内容	所用分数
1 日 目	導入	10:00-10:15	オリエンテーション	沖縄県・OCVBから本研修実施の背景や目的、受講者への期待について開会挨拶を行うとともに、運営事務局より研修の進め方・諸注意についてお知らせします。	15
		10:15-10:35	アイスブレイク	受講者同士のネットワークづくりや研修内での交流を促進するために、グループになって自己紹介セッションを行います。	20
	外国人患者受入れの基礎知識	10:35-11:05	「外国人患者」とは～基本の3分類～	外国人患者の分類（在住・訪日・医療目的渡航）とそれぞれの特徴や受診状況、関連政策などの最新動向を学びます。	30
		11:05-11:35	外国人患者受入医療コーディネーターの役割と必要な能力	「外国人患者受入れ医療コーディネーター」とはなにか、やるべきことややらなくて良いことは何かを学びます。	30
		11:35-11:45	休憩	-	
		11:45-12:15	沖縄県の外国人医療の現状と対策	沖縄県の外国人の現状の解説とそれに対して県内医療機関が活用できる県等による対策や施策について学びます。	30
	交流会	12: 15-13:30	ランチ交流会	ハラル弁当など外国人受入れのテーマにあった食事を手配し、食事を食べながら多くの参加者との交流の場とします。	75
	外国人患者受入れの実際	13:30-14:00	沖縄県内での先進事例の紹介	沖縄県内で外国人患者を先進的に受入れている医療機関から受入れ事例について学びます。	30
		14:00-15:00	多言語対応のための体制整備～医療通訳の活用と院内の多言語化～	外国人患者とのコミュニケーションにあたって必要不可欠な医療通訳と多言語ツールの実践的な活用法・院内の表示や資料の多言語化の方法について学びます。	60
		15:00-15:15	休憩		
		15:15-16:15	外部連携のための体制整備～旅行保険・大使館/領事館・入国管理局、地域連携～	外国人患者受入れにあたっては、日本人患者と同様の病診・地域連携や、外国人特有の連携先として海外保険会社・大使館・入国管理局などとの連携が必要です。外部機関との円滑な連携のポイントを学びます。	60
	課題ワーク	16:15-16:45 (ワークの説明のみ)	自院に必要な体制の見極め方～現状分析と課題抽出・解決策の立案～	ワークシートを使い、自院の地域特性・病院特性の分析、外国人患者の来院ケースの想定、課題の抽出を行います。その上で、課題解決のための施策とその実施スケジュール・担当者などを記載するためのTODOリストの作成を行い、研修終了後すぐに具体的な体制整備に着手できるように準備します。	90 (説明と自主学習の合計)
		16:45-17:00	課題提出についての説明	課題の内容や提出方法・評価方法などについて詳しく解説を行います。	15
		17:00-17:10	休憩		
	総合質疑	17:10-17:30	総合質疑	ここまでの講義で扱った内容やそれ以外で講師に聞きたいこと、課題についてなどあらゆる質問を受け付ける時間です。	20
2 日 目	外国人患者受入れ体制整備とリスク管理	10:00-12:10 (うち10分は休憩)	リスク管理の基礎知識～未収金・医療過誤・訴訟・感染症へ備える～	外国人患者受入れにあたって備えておくべき、未収金・医療過誤・訴訟・感染症のリスクとそれぞれへの代表的な対策方法を学びます。	120
		12:10-13:00	ランチセッション	外国人患者受入れに関する動画（講師の所属する医療機関の院内紹介など）をご覧いただきながら、昼食をとっていただきます。お弁当は事務局でご用意します。	50
	外国人患者受入れの実際	13:00-14:00	異文化対応のための体制整備～外国人患者コミュニケーションのコツ～	文化や習慣の違い外国人患者からはさまざまな要望やクレームが出てくることが珍しくありません。医療機関としてできること・できないことを明確に伝え、納得して医療を受けてもらうためにコミュニケーション上で気をつけるポイントを学びます。	60
		14:00-14:10	休憩		
	事例検討グループワーク	14:10-17:25 (うち15分は休憩)	事例から学ぶ受入体制整備の進め方と組織の課題解決方法	沖縄県で発生した事例を中心にした題材ケースを紹介し、未収金防止、訴訟・トラブル防止、感染防止、緊急搬送、組織の課題解決等の外国人患者受入体制整備についてグループで議論し、講師の解説を踏まえて具体的方法を主体的に学びます。	180
		17:25-17:35	休憩		
	総合質疑	17:35-18:05	総合質疑	研修全体で扱った内容やそれ以外で講師に聞きたいこと、課題についてなどあらゆる質問を受け付ける時間です。	30
	ラップアップ・クロージング	18:05-18:20	修了証・バッジの発行	修了証・バッジの発行を行い、沖縄県・OVBCから開会挨拶を差し上げます。	15

「外国人患者受入れ医療コーディネーター研修」 修了者所属機関一覧

平成29年度に東京で開催された研修では、87機関から全124名の修了者を輩出しています。

平成29年度修了者の所属機関一覧（一部）

- * 掲載許諾を頂いた医療機関から順次掲載しております。
- * 医療機関名の五十音順です。

- ・ 医療法人財団 岩井医療財団
- ・ SUBARU健康保険組合 太田記念病院
- ・ 医療法人タピック 沖縄リハビリテーションセンター病院
- ・ 社会医療法人誠光会 草津総合病院
- ・ 社会医療法人財団 董仙会 恵寿総合病院
- ・ 東京都立駒込病院
- ・ 公益財団法人日産厚生会 玉川病院
- ・ 千葉県精神科医療センター
- ・ 医療法人社団愛友会 津田沼中央総合病院
- ・ 国家公務員共済組合連合会 虎の門病院
- ・ 東京ベイ・浦安市川医療センター
- ・ 名古屋市立大学病院
- ・ 社会医療法人大成会 福岡記念病院
- ・ 医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院
- ・ 社会医療法人生長会 府中病院
- ・ 社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院
- ・ 医療法人社団プログレス 四日市消化器病センター

平成29年度開催実績 外国人患者受入れ医療コーディネーター養成研修 ご登壇講師のご紹介

平成29年度の研修では外国人患者受入れ実績豊富な医療機関の外国人患者受入れ担当者の方々にご登壇いただき、実務経験に基づく知識やノウハウ、事例などを多数ご紹介いただきました。

平成29年度ご登壇実績のある講師一覧

* 敬称略、50音順、所属・役職はご登壇当時

石田亜紗子氏（医療法人沖縄徳洲会湘南鎌倉総合病院 国際医療支援室）

海老原功氏（NTT東日本関東病院 医療連携室 外国人患者向け医療コーディネーター）

岡内真由美氏（看護師、東京都立広尾病院 患者支援センター 外国語医療コーディネーター）

原茂順一氏（聖路加国際病院 病院事務部患者サービス課 国際係マネージャー）

福永美保氏（済生会横浜市東部病院 国際連携室 室長）

二見茜氏（看護師、国立国際医療研究センター 国際診療部 研究員）

堀成美氏（看護師、国立国際医療研究センター 国際診療部 国際医療コーディネーター）

百崎眞氏（日本医科大学健診医療センター事務室長）

山田秀臣氏（医師、東京大学医学部附属病院 国際診療部 副部長）

横山みどり氏（独立行政法人 地域医療推進機構 東京高輪病院 国際部副部長・看護師）



昨年度の講義の様子

受講者の声



「研修受講したことで自院の課題を整理でき、手探り状態から脱するきっかけになりました」

平成29年4月受講

岩井医療財団 医療情報部 広報課 北村果納子さん

Q. 研修受講の動機・きっかけはなんでしたか。

何から手をつけたらいいのか分からない「手探り状態」から脱出したかった

当院は、名前の通り整形外科と内科がメインの病院で、特に椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症などの脊椎疾患治療に特化した病院です。患者さんの身体に負担が少なく、早期に退院・社会復帰のできる内視鏡下手術を得意としており、東京都江戸川区という外国人居住者が多い地域ということもあり、日々近隣にお住まいの外国人が受診されています。また、当院の脊椎内視鏡下手術を受けることを目的に、海外から来日される患者さんもいらっしゃいます。

ですが、2017年当時はまだ外国人患者さんの受入れルールや体制が決まっていなかったため、本格的に体制整備を始めることになり、これまで外国人患者さんの通訳や問い合わせ対応などをしてきた私が、担当者のような形になりました。でも、いざ体制整備を開始してみると、いったい何から手をつけたらいいのか、誰に相談したらいいのか、手探りの状態だったんです。そんな中で「外国人患者受入れ医療コーディネーター研修」を見つけ、JMIP（外国人患者受入れ医療機関認証制度）の受審も控えていたこともあり、なにか得られるものがあるかもしれないと思い、受講することを決めました。

Q. 貴院で外国人患者受入れ体制整備に取り組む理由は为什么呢。

患者さんだけではなくスタッフの安全も守るために

先ほどお話したように、当院では日々外国人患者さんを受け入れていましたが、これまで外国人患者さんを受け入れるためのルールや体制を整備したり見直したりする機会もノウハウもなく、そもそも体制作りに関わる担当者も決まっていなかったんです。そのため、スタッフは外国人とのコミュニケーションに苦慮し、事故やトラブルのリスクにさらされてきました。外国人患者の来院や問い合わせが増える中、このままでは、患者さんだけでなくスタッフの安全にも影響してしまうと危機感を抱き、副院長を中心として外国人患者受入れ環境の整備をはじめることになりました。

Q. 実際に研修に参加してみていかがでしたか。

知識やノウハウはもちろん 同じ課題に取り組む仲間に出会えた

研修では、外国人患者の受け入れ実績を多く持つ医療機関の担当者の方から事例を交えた話が聞けて、これまで知らなかった知識・ノウハウを得ることができましたし、外国人患者受入れ体制の整備に積極的に取り組んでいらっしゃる医療機関の方とも交流ができました。研修での交流をきっかけに施設訪問をさせていただく機会もありました。やはり、実際に外国人が日常的に来院されている現場で、どのような取り組みをされているのか見たり聞いたりすることは大きな収穫になります。また、実際に取り組みを進める上で、助言や意見をいただけるつながりができたのも、研修に参加して良かったと思えることの一つですね。



Q. 研修に参加して、貴院の外国人患者体制整備に役立ったことはなんですか。

経験豊富な講師からのアドバイスをきっかけにやるべきことが明確に

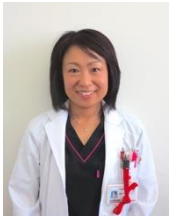
ある講師の方に「外国人患者受入れ対策は、学習ゴールを壮大にすると失敗しがち。病院としてできないことがあっても、患者にきちんと説明し、妥協点を探せるようにしておけば良い。」と教えていただき、これまで高くそびえ立っていた外国人患者受入れのために越えなければならないハードルが、一気に下がった気持ちになりました。研修を参加したことで、当院での課題を整理することができ、その後の体制整備でやるべきことが明確になったことが、当院の体制整備が前に進むきっかけになったと思います。

Q. 受講を検討されている方や、これから体制整備をされる方にメッセージをお願いします。

将来のリスクに備え来院する外国人患者数が少ないうちに体制整備を

当院のような中小規模の病院やクリニックでは、日常的に外国人患者が来院する大学病院や総合病院に比べて、外国人患者受入れ対策が後手に回りがちです。でも、訪日外国人が増えていて、2020年東京オリンピックも控えている中で、今後どの医療機関にも外国人患者の問題に直面して頭を抱えるタイミングが来るはず。来院する外国人患者の数がまだ少ないうちに、様々なリスクに備えて準備を進めることが重要だと思います。外国人患者体制整備はどこの医療機関にとっても新しい取り組みですが、研修で必要な知識とノウハウ・仲間を得ることで、皆さんが一人で悩みこむことなく、自院の体制整備を進められることを願っています。

受講者の声



「体制整備をしないことで病院が抱えてしまうリスクと その対応事例を学び、体制整備の具体的な道筋が見えました」

平成29年4月受講

成田赤十字病院 国際診療科 部長/国際救援部開設準備室 室長 浅香朋美先生

Q. 研修受講の動機・きっかけはなんでしたか。

国際担当部門の立ち上げとJMIP受審に向けた参考に

当院では成田国際空港近くにある病院ということもあり、以前より外国人患者さんの受入れを行なっていましたが、外国人患者対応の専門部署はなく、英語が話せる人がその都度現場に呼ばれその場その場で対応をしている状態でした。しかし、英語を話せるスタッフが自分の本来の業務を外れて対応する体制のままでは日常業務に支障も出るため問題があるという現場の声もあり、2017年4月に国際診療科・国際救援部開設準備室が立ち上がることになったんです。同時期にJMIP認証を受けることも決まったため、いろいろと情報収集をしている中で研修について知り、なにか体制整備に役立つのではないかと思います、受講することを決めました。

Q. 実際に研修に参加してみていかがでしたか。

病院全体としてどういったリスクを抱えるのかが明確になり危機感が芽生えた

きちんと体制整備をしないと病院としてどういうリスクを抱えてしまうのか、ということに気づけたのがとても大きかったですね。私自身も外国人患者さんに対応していたので、研修を受ける以前から現場で言葉が通じなくて困るとか、そういった問題には自分自身で直面して認識していたのですが、病院全体としてどういう問題につながるかという視点はまったくありませんでした。例えば、未収金や医療安全など今まで考えが及ばなかった点に気づくきっかけになりました。

また、様々な講師の皆さんから外国人患者対応について事例をあげて解説をいただいたので、内容も非常に分かりやすく楽しく受講することができました。参加者や講師との繋がりがつくれたことも良かったです。研修を通じてご挨拶した講師の方に医療機関の見学に訪問させていただいたりすることもでき、大変参考になりました。

Q. 研修に参加して、貴院の外国人患者体制整備に役立ったことはなんですか。

病院の抱えるリスクとその対応策をセットにして上層部に説明・提案し、電話医療通訳のスピード導入に成功

研修を受講したことで、ここまではまずいという危機感が生まれたと同時に、どのように体制整備をしていくと良いかの具体的な道筋が見え、院内の整備をスピードアップさせることに役立ったと思います。例えば、医療通訳を入れずに外国人患者さんに対応することで訴訟に発展したり、訴訟で立場が弱くなったりするリスクがあることを学び、それをそのまま上層部に伝えて電話医療通訳導入の必要性を訴えたところ、迅速な導入が実現できました。

また、最初に院内アンケートをとると現在の課題がわかるという講師のアドバイスを受けて、部署を立ち上げるにあたって院内アンケートをとったところ、院内の多くの人が「今更外国人を呼び込んでどうする」というような、ネガティブな意見を持っていることがわかりました。最初は私たちとの温度差が大きいという結果にショックを受けましたが、実態を把握できたことでそれに対する対応策も早めにとることができたのが良かったです。アンケート実施後には、研修で教えていただいた院内に反発があった場合の対応策を意識してとるようにすることで、少しずつ理解を得られてきていると感じています。そのほか、本人確認や未収金防止対策などで具体的な解決方法を教えていただいたことで、ルールを変更し、改善につなげることができています。

Q. 外国人患者受入れ体制整備に取り組むやりがいとはどのようなものでしょうか。

外国人患者さんにとっての「日本」を担う

当院では日本に滞在する予定が全くなかった人が搬送され、院内だけを見て帰る人も少なくないため、その患者さんにとっては「日本=成田赤十字病院」になることもあります。ですから、当院が日本の医療や文化を代表しているんだという意識をもって対応にあたっています。患者さんが退院される際に「元気になって今度は絶対に観光で日本に来たい。」と言ってくれることもあり、それは本当に嬉しい経験です。



また、先ほどはアンケートで院内から厳しい意見が多かったとお話ししましたが、その反面、現場ではスタッフは外国人患者さんに対してとても親切なのでびっくりすることもあるんです。やはり赤十字精神を叩きこまれているせいなのかもしれません。ですから、院内スタッフが言葉が通じない患者さんに対しても安心して赤十字の使命（「わたしたちは、苦しんでいる人を救いたいという思いを集結し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守ります。」）を果たせるよう私たちがサポートしていきたいという思いもありますね。

Q. 研修への受講を検討されている方や、これから体制整備をされる方にメッセージをお願いします。

日本中で外国人の受診が日常になる時代に向け、ともに課題解決を

国内の外国人は増え続けていますので、今後、特定の病院に限らず、日本中のどこの病院でも外国人の受診が日常になる時代が来ると感じています。研修では同じ課題に取り組む多くの仲間とも出会えますので、仲間たちといろいろな経験を積み、それを共有しあい、外国人患者対応における課題を一緒に解決していくことで、日本の医療の将来につなげていければと思います。

お問い合わせ先・企画運営団体について

本研修のお申し込みに関するお問い合わせ、申し込み書類の提出は以下までお願い申し上げます。

【お問い合わせ先・書類提出先】

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー
受入事業部 受入推進課（大城、久田、比嘉）

TEL: 098-859-6129 FAX: 098-859-6222 e-mail: inbound@ocvb.or.jp

〒901-0152 沖縄県那覇市字小禄1831-1 沖縄産業支援センター2F

本研修は以下のような、外国人患者受入体制整備のためのプログラムを専門的に実施している団体が企画・運営を行います。

【本研修の企画・運営団体】

メディフォン株式会社

研修企画・開催及び電話やビデオを通じた遠隔医療通訳サービスmediPhone（メディフォン）の提供等を通じて、医療機関における外国人患者受入れ体制整備を支援。前身組織である一般社団法人ジェイ・アイ・ジー・エイチ（JIGH）にて2014年1月より事業を開始し、2018年6月よりメディフォン株式会社での運営を開始。

国立国際医療研究センターで企画した外国人患者受入れ医療コーディネーター養成研修プログラムを受け継ぎ、国内1,400機関以上（無料トライアル機関含む）に対し遠隔医療通訳サービスを提供する中で蓄積した外国人患者対応ケースから、対応ノウハウを抽出し、それらを体系的に整理した上で更に充実したプログラムとして2017年から運営を開始（2017年度は前身組織のJIGH内で主催・企画・運営、2018年度以降運営を当社が引き継ぎ）。共同企業体である一般社団法人ジェイ・アイ・ジー・エイチが主催・企画としてプログラムに関わる。研修事業においては無料セミナーも含め2017年度に840名以上の医療者が受講した実績を持つ。

一般社団法人一般社団法人ジェイ・アイ・ジー・エイチ（JIGH）

「医療×グローバル」の課題解決に取り組む医療シンクタンク。国際保健・医療領域における調査・研究事業や国内における外国人患者受入れ体制整備支援事業を行う。これまでに、厚生労働省、東京都医師会、石川県医師会、全日本病院協会、近畿運輸局、北海道運輸局、厚生労働省等より関連事業を受託した実績を保有する。

国立国際医療研究センターで企画した外国人患者受入れ医療コーディネーター養成研修プログラムを受け継ぎ、2017年より「外国人患者受入れ医療コーディネーター養成研修」を企画・主催。2018年度より、共同企業体であるメディフォン株式会社が事務局を務め、JIGHが企画としてプログラムに関わる。